

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 346 号	氏名	深堀 範
学位審査委員	主 査	松山 俊文	
	副 査	大園 恵幸	
	副 査	永安 武	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価</p> <p>ダニ抗原 <i>Dermatophagoides farina</i> (<i>Df</i>) は気管支喘息発症において重要な役割をしている。一方、大気中に含まれるアスペルギルス <i>Aspergillus fumigatus</i> (<i>Af</i>) による感染も気管支喘息発症や増悪のリスクファクターであることが知られている。本研究は <i>Df</i> 感作に及ぼす <i>Af</i> 感染の影響について検討しようとしたものであり目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>BALB/c マウス骨髄由来の樹状細胞を用い <i>Df</i> と <i>Af</i> の存在、非存在の組み合わせで6群を作りパルス後 24 時間の培養上清中の炎症性、抗炎症性サイトカインの量、そして樹状細胞に発現するパターン認識受容体 (TLR2, TLR4, Dectin-1) の発現量を測定した。またパルス後の樹状細胞の経鼻移入後、<i>Df</i> に経鼻暴露させ犠牲死後に肺組織、縦隔リンパ節由来単球からのサイトカイン産生を検討した。更にパターン認識受容体の役割を調べるために特異的阻害抗体を用い、樹状細胞のパルスの過程、樹状細胞の移入実験への影響を検討した。これらの研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p><i>Df</i> の感作時に <i>Af</i> が存在することにより抗炎症性のサイトカインが誘導されアレルギー性気道炎症が抑制されることが証明された。これらの研究成果は所謂衛生仮説を支持するとともに、パターン認識受容体を介したシグナル伝達制御によりアレルギー疾患の制御ができる可能性を示唆するものであり高く評価できる。審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			